

わがまちの
「ちよつといい話」
NO. 15
「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○ワークショップ開催

七月二六日午前十時。第一回「道徳のまち笠松」ワークショップが総合会館で開催されました。何かと忙しい月末の日曜日ですが、参加者は推進会議委員を含め、三三名。

今回は、推進会議の掲げる二つの取り組みの中から「きれいなまち」を取り上げ、「ポイ捨て」「ゴミゼロ」のまちをめざし、笠松人の「こころを育む」がテーマ。町内の現状をもとに、ポイ捨てゴミをなくしようという情報・意見・取り組み案が熱心に話し合われました。

○町の現状は……

町全体はおおむねきれいです。しかし、県道一五一号線門間の交差点、木曾川堤防道路、国道二二号線の路肩、JRガード下、東海北陸道高架下など

“ポイ捨てゴミ ゼロ”
のまちに



では、ポイ捨てゴミが目にあまる状況です。拾っても、拾ってもペットボトル、缶、ビン、弁当の空などのポイ捨てゴミは後を絶ちません。

○アダプトプログラムで

NHKの放送番組「ご近所の底力」で、岐阜市京町地区のポイ捨てゴミや街路樹の落ち葉拾いに、地域ぐるみで取り組まれたことが紹介されていました。そのような京町地区自治会連合会長の藤澤真一氏から直接お話を伺いました。住民が少しずつ力を出し合い、公共地を「自分の子である」という意識で世話をするアダプト

プログラムに参加し、継続的な取り組みとなり、地域コミュニティづくりにつながったとのことでした。

○見えないポイ捨てゴミ

ポイ捨てゴミは、私達が出すごみではありません。しかし、ここは私達の生活の場です。誰しも、きれいな環境で生活したいと願っています。グループ討議の中で、「まずゴミを片付けよう。」「片付けた後のきれいさを維持しよう。」「ゴミを拾う姿でポイ捨てしない心を伝えよう。」といった声があがり、どのように取り組むかアイデアや知恵を出していただきました。



ワークショップで
アダプトプログラム取り組みの紹介